

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970600167
法人名	医療法人 桃潤会
事業所名	グループホームみたま
所在地	〒 409-3612 山梨県西八代郡市川三郷町上野2968 電話番号 055-272-8110

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】平成21年2月4日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	12人	常勤	5人 非常勤 7人 常勤換算 10.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 明治33年1月0日 現在

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市川三郷町立病院・市川三郷町営国民診療所・内藤歯科医院・米波内科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年2月16日

富士川に沿って栄えた町で、近所には歌舞伎と牡丹の花で有名な公園がある。小高い丘陵にある施設は、介護老人保健施設ナーシングプラザ三珠が併設されている。デイサービスやリハビリテーションもあり、幅の広い介護施設として貢献している。グループホームは2階にあり和室と洋室の2ユニットにわかれている。広いフロアは、つながっていて利用者は自由に往来できる。「持てる力をいかしましよう」を心に、職員は利用者のやる気を引き出すように努めている。ホールには書道や折り紙、ぬり絵など、利用者の作品が展示され、明るい雰囲気の中で自分らしい生活をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 1、「グループホームみたま」の看板が解り易く玄関に設置された。2、運営推進会議が2か月に1度開催され、議事録が整理されていた。3、利用者家族へのお便りが好評で、担当者の励みとなる。4、連絡事項や各書類にきちんと捺印がされていた。的確な改善が確認され、更なる向上に期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、主に管理者とリーダーで作成した。項目によっては、他の職員の意見を聞き、反映させているところもある。また、前回の外部評価の結果は、ひとつずつ工夫され、改善されていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) メンバーは、町の福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者の家族、事務長と職員の参加で2か月に1度行っている。利用者の現状報告と各行事(お餅つきなど)の参加のお願いをしたり、家族と出席者の意見交換なども行い、有意義な会議としている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 1階の玄関に苦情処理箱を設置している。また、年に数回、利用者や家族、職員の交流会があり、親睦を深めている。身延山に行き、みんなでお弁当を食べたり、開放された自然の中で、お話をして何でも気軽に言える状況の場としている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育園の運動会に参加したり、また、小学生がボランティアで訪問に来てくれる。地区の防災訓練にも参加している。自治会に加入していないので直接、近所との関わりは少ない。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームみたま

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営方針を理念として掲げているが、地域密着型サービス事業所の理念としては、具体的なイメージが感じられない。	○	運営方針で唱えていることを踏まえて、事業所が目指している地域密着型サービス事業所としてのあり方を、端的にわかりやすく表現した理念の作成に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、利用者の持てる力を活かすことを心がけ、一人ひとりの満足感を大切にしたい支援をしているが、理念について、職員間で話し合う機会は設けられていない。	○	ミーティングや各会議時に、職員間で理念を確認したりして、理念の共有がはかれるよう期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の保育園の運動会に参加して、子供との交流を深めている。また、小学生がボランティア活動で訪問してくれ、仲良く過ごしている。地区の防災訓練に参加したり、夏祭りなどにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、主に管理者とリーダーで作成した。項目によっては、他の職員の意見を聞き、反映させているところもある。また、前回の外部評価の結果は、ひとつずつ工夫され、改善されていた。	○	評価を全員で見直し、検討することにより、更なるステップアップにつながる。今後は、自己評価に職員全員で取り組むことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行い、議事録がファイルに綴られている。参加メンバーは、町の福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者の家族と職員で、家族の要望や、行事の参加依頼と近況報告など協議している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課の担当者が運営推進会議に参加して、施設の状態を把握している。今後、「ホーム便り」を届け、情報交換などをして近親感を深めていく努力をしていく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り、金銭出納帳と一緒に担当者は、利用者の様子を手紙に書いて、家族に報告している。お手紙は温もりが伝わり、家族から好評を頂いている。利用者の状況の変化に応じて、家族と密に電話で連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族の交流会があり、家族も一緒に参加していただく機会を設けたり、面会に来た時など、気軽に意見等を表せる機会、体制づくりに努めている。苦情処理箱も玄関に設置し、直接言いにくいことは記入できるよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交替はないが、併設の老健やデイサービスから、職員の異動がある。しかし、改めての紹介などはしていない。	○	前もって異動や退職のお知らせを、利用者と家族にしていないので、お便り等で連絡するなど、家族等への配慮も含めた取り組みに期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの研修があれば、参加している。新人職員は先輩について見習いながら勉強をしている。併設施設内で各委員会に加入しての研修会もある。しかし、グループホーム独自の研修などは実施していない。	○	グループホーム独自の勉強会を計画し、テーマを決めて勉強する取り組みに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、研修会等へ参加し、交流の機会としている。ただし、町内には同業者がないため、近隣の事業所との実践的な交流や連携は困難である。	○	同業者との実践的な交流や連携は、相互のサービスの質の向上につながる。町内に限らず、他の事業所と定期的な交流や連携を行えるように、より一層積極的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスから、グループホームに入居するケースもある。体験入居はないが、利用者と家族が面接に来て馴染めるか、様子を見ながら、入居するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物や裁縫を「一緒にやっていただけますか?」と、声をかけてから行動する。「支える、支えられる心」を胸に、一人一人の個性に合わせた日程で楽しく過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の持てる力を活かし、得意分野を把握して「お手伝いして頂けますか、買い物に行きますか」と優しく声をかけて誘い、無理なことは強制しないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書を作成する為に、毎月1回のカンファレンスを行う。介護計画の見直しは、3か月に一度行う。作成者は担当職員とモニタリングを行い、現状にあった計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じては、その都度、担当者とリーダーで話し合い検討し、介護計画を見直し作成している。長期は1年、短期は3か月に1度の定期見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の他事業所と連携し、柔軟な支援につなげている。また、利用者が外出する時などの送迎もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の受診は、家族が対応しているが、都合が悪く対応できない場合には、職員が付き添い、臨機応変に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の利用者は、医師、看護師のいる併設の老健か病院に移っていただくことを、入居の時に、家族に説明してあり、理解していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、さり気なくトイレ誘導をしている。優しい声掛けに、利用者に対しての心使いと配慮が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お誕生日会のケーキを作ったり、ぬり絵をしたり、各々の得意なことを活かしつつ、その人らしく気持ち良く過ごせる取り組みを職員は心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の手伝いをする利用者、テーブルを拭く人と共同作業で準備をしている。食事時間もそれぞれで、利用者のペースに合わせて食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、午後から入浴時間となる。絶対に夜でなければと言う利用者がいないので、夜間入浴はしていない。気の合う利用者は、2人で入浴を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が畑で作った野菜を洗い袋に詰めて、お祭りで販売をしている。梅の木もあり、もぎ取りから梅漬けをして販売もしている。外での仕事は、利用者と職員の共同作業となり、共々の楽しみでもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車が好きな利用者が多く、ドライブ、外食、歌舞伎公園などに出掛けている。穏やかな暖かい日は、毎日でも散歩に行き、近隣の人との触れ合いをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の部屋にある窓は、危険のないように少し開く。部屋は開放されているが、一般の出入口の扉は施錠されている。	○	出入口の施錠をしないで、安全に過ごせるための取り組みについて話し合い、取り組まれることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加している。また、法人施設全体で防災訓練を行っている。非常用の食料等の備蓄はされていない。	○	事業所独自に昼夜を想定した防災訓練を行ったり、また、非常用食料等の備蓄をするなど、いざという時に慌てず確実に対応できるような備えに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の検食帳に食べた量や栄養、水分がチェックされている。栄養士のバランスの良いメニューとおやつが出される。脱水症にならないよう職員は水分補給に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなで寛げる広いフロアーの中心には、中庭がある。また、物干しが陽あたりの良い方におかれるなど、快適に過ごせるよう工夫されている。壁には利用者の作品が展示され、家族の面会時の目の保養となり楽しみにもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自分の愛着のある人形、ダンス、テレビなどを置いている。家族や孫の写真を貼ったり、安心して過ごせるようになっている。		